



安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.40 2017.12.6
TEL71-2466

平成29年度安曇野市文化祭

10月20日から11月19日にかけて、各地域で文化祭が開催されました。



堀金

堀金文化祭は11月3日に堀金総合体育館でまどいの広場、芸能祭が開催され、作品は5日まで展示された。



午前10時から始まったまどいの広場は、堀金小・中学校の演奏活動発表の場として芸能祭とは別枠を設け、第19回の開催になる。最初にステージに立った堀金小

学校金管バンド部は「ライジングサン」「前前世」などを演奏した。堀金中学校の総合的な学習の時間の和太鼓講座「赤鬼塾」は、6月から練習を続けてきた成果を発表した。多くの大会に出場してきた堀金中学校吹奏楽部は3年生が引退して新体制でスタートとなった。ドラマの主題歌だった「恋」をダンスとともに演奏したり「グッドラック」他をパフォーマンスで演奏したりして観客を魅了した。午前11時からは各地区公民館の女性部による地産地消黒豆試食コーナーが開設され、黒豆ご飯、黒豆ゼリー、豚汁がふるまわれた。芸能祭は午後0時15分に開会し、23組が出演した。太鼓は堀

金常念太鼓女雅美、保存会、童の3グループが出演し勇壮に演奏、詩吟は4グループが渋い味を競った。小田多井詩吟教室



は、常念校長と呼ばれた「佐藤嘉市」元堀金小学校長の業績を構成吟で発表した。大正琴、文化箏、二胡、笛は優美な音色を奏で、3組のコーラスグループと堀金小学校合唱部は爽やかな声を届けた。民謡と舞踊、フラダンス、キッズダンス、ジュニアダンスはそれぞれ艶やかな衣装で発表をした。

メインアリーナには絵画、書道、写真、短歌、俳句など、日常の活動や学習、努力の成果が展示された。各地区公民館出品

作品や、小・中学校児童生徒作品、堀金公民館講座「菊づくり物語」で初心者

(東山路)



明科

第13回明科地域文化祭が11月3日から5日まで開催された。長峰山の紅葉と対比するように、玄閑入り口には丹精して育てられた艶やかな色の懸崖菊や盆栽菊などが多彩に飾られ、香りとともに来館者を楽しませていた。

1階ホールには「明科いいまちつくろうかい!!」の写真コンテスト入賞作品や「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト」の活動発表掲示物などが展示され、明科で見られる景色や地域の良い所を探し、明科の別の顔を再発見する取り組みも感じられた。布草履・アメリカンフラワー・羽子板・水彩画・油絵・木彫など、色彩も豊かで繊細な作品が数々展示された。2階には写真、押し花絵、書道、新しい織り方を試みたお雛様のタペストリーの織物、明南小・明北小・明科中・明科高校の児童生徒



の作品も展示されており、作品の質やレベルの高さに改めて感じられた。地域文化祭は、隣の人々の知られざる特技や才能を知る良い機

会でもある。

3日には、3月に開催される安曇野市総合芸術展実行委員による作品選考の場面に遭遇し、作品を審査する様子を初めて見た。

4日のお楽しみサロンでは、特別企画として「金崎絵里子ピアノコンサート」が開催された。2016年、第6回あづみの新進音楽家公開オーディションで好評を博した演奏家である。金崎さんは、軽やかなタッチでトッカータやパルティータなどを演奏した。その宗教的な雰囲気のある音色が会場に響き渡り、厳かなひと時を醸し出していた。



5日は、芸能発表会であった。玄閑横には消防車が展示されており、多くの来場者の目を引いていた。明北小学校金管バンド部の演奏を皮切りに、地域の個人・団体合わせて30の演目が次々と披露された。どの出演者も団体も回を重ね、努力をされており、技量の熟達度が増した姿に感服する盛秋の一日となった。

豊科

第13回豊科地域文化祭は、3か所の会場で10月27日から11月19日まで行われた。

豊科交流学習センター

「きぼう」会場

10月27日から31日まで、回廊での菊花展、ホールの11流派による華道展・フラワーアレンジメント展、ロビーでは茶会が行われた。菊花展は、大輪等160点余の出品があり見ごたえがあった。期間中、2日間は雨天だったにもかかわらず300人を超える参観者があり盛況だった。

豊科公民館会場

11月3日の芸能発表会は、25団体420人の発表が午後4時まで行われた。豊科地域の5つの小学校がそれぞれ合唱・吹奏楽・太鼓の発表をしたり、豊科高校演劇部が演劇をしたり、地域の皆さんに大好評だった。また、ダンスやバレエ3団体の発表、舞踊・剣舞・オカリナ・尺八・箏など様々なジャンルの発表があり充実していた。盆栽展・茶会は、大ホールのホワイエで行われた。合わせて1000人を超え



染・マクラメ・彫刻・絵手紙・てまり・フラワーボトル等の出品があり、各地区公民館のクラブ活動が充実していることがうかがえた。

豊科郷土博物館会場

豊科公民館会場と同じく11月6日より絵画・書道・彫塑等が展示され、絵画や小中学生の書道の作品が例年より多かった。展示会場として専用の造りなので、見学者は落ち着いた雰囲気の中でじっくりと作品を鑑賞していた。

短歌大会・俳句大会

11月11日に行われた短歌大会は、15人から出詠があり、また19日に行われた俳句大会では、ジュニアの部に市内の小中高校生1132人の投句が、また一般の部では245句の投句があった。それぞれの大会で入選や佳作が選ばれ受賞された。

穂高

第13回安曇野市穂高文化祭は、10月20日から11月12日まで開催された。



穂高神社境内では盆栽・山野草展、あづみ野菊花品評会、穂高人形・御船祭保存会3教室展が開催され、バスで訪れた観光客からも熱心に見入った。

穂高会館では11月3日から5日にかけて総合美術展、芸能まつり、高齢者作品展、安曇野緑の会「安曇野の外來植物」展、健康マージャン教室が行われた。

芸能まつりは3日にカラオケ発表会、4日に第一部、5日に第二部が催された。第一部でブレイクダンスの発表をした穂高東中学校1年生の青柳修斗くん、丸山颯太くん、穂高南小学校5年生の小林羽琉くんの3人は「今まではわさび祭りなどで何度か踊ったが、穂高文化祭では初めて。ダンスはイメージを合わせるのが難しいけ



れど、皆でピツタリ合った時がうれしい」と話した。

第二部は市歌「水と緑と光の郷」を全員で合唱した。あづみの鼓友会のアルプホルン、金管演奏や吹奏楽などの発表がにぎやかに行われ、たくさんの人々が鑑賞した。

総合美術展では書道、工芸、ビデオ、茶道、生け花、児童・生徒による絵画、穂高悠生寮、有明高原寮などの作品が展示された。煎茶道方円流穂高会にて煎茶の体験を受けた穂高西小学校5年生の滝沢優歩さんと3年生の心美さん姉妹は「お茶が全然苦くなくておいしい」「甘い菓子と合おう」と感想を語った。



三郷

三郷祭は、10月21、22日の文化産業展を皮切りに、28日にふれあいコンサート、31日から菊花展、11月4日の芸能発表会まで半月がかりで開催された。

三郷文化公園体育館で開いた文化産業展は10数団体の作品と個人出品があり、三郷小・中学校や姉妹都市の小中学生の作品が並んだ。体育館入り口のロビーの天井



でカイトクラブが制作した凧が来た。三郷昆虫クラブによる昆虫展では、珍しい昆虫や蝶の標本、写真、パネルが並べられた。

た。他にも生け花、絵画、写真、書道、短歌、ペン習字に押絵や工芸品などの展示があり、三郷郷土研究会の7グループは研究成果を展示した。

ふれあいコンサートは三郷中学校講堂で開催され、三郷小・中学校の吹奏楽部、合唱部の演奏やコーラス、マリimba、ミュージックベル、コカリナ、尺八等のクラブの演奏があった。最後に、県歌「信濃の国」を会場全員で合唱した。



三郷公民館のロビーでは菊花展、講堂では芸能発表会を開いた。芸能発表会では安曇野市の無形民俗文化財に登録されている上長尾の獅子舞

を三郷義民太鼓保存会が披露し、三郷小の6年生が大人と踊る三郷音頭やみさと男女共生社会づくり会議の寸劇、豊扇会と小扇会の艶やかな舞踊が会場を盛り上げた。

（東山路）



常念フェスティバル

10月28日、初の試みである「常念フェスティバル」が堀金多目的屋内運動場（常念ドーム）で開催された。堀金には市民運動会、堀金一周駅伝、冬季スポーツ大会などの地区公民館対抗のスポーツ大会はあるが住民が一堂に会する祭りはなく、地域住民の要望を受け公民館と地域課が企画し、市商工会堀金支所で実行委員会をつくる「ほりがね秋の新興祭り」と同時に開催された。



フェスティバルは出展・体験コーナーとステージ発表、仮装行列で構成される。50余りの個人店舗や団体が手作りの菓子や工芸品、アクセサリー、衣類などを販売したり、体験コーナーやフリーマーケットを行ったりした。

ステージ発表ではリサイクル工作、読み聞かせとお話し会、空手道演武、2団体のコーラスが行われた。雨にもかかわらず来場した参加者は、買い物やステージ発表を楽しんでいた。信州こども食堂は非常食の五目ごはんとかまめごはん、味噌汁、

甘酒、スープを無料で提供し、「肌寒いので心身を温めてくれた」と好評だった。

仮装行列は堀金常念太鼓・童、堀金児童館、堀金中学校有志、友達同士でチームを組んだ仲良し娘、チームネコ&チームマルナカの一一般応募5組62人が参加しフェスティバルを盛り上げた。

（東山路）



櫓

秋の安曇野水まつりの「お水取りの儀」が10月17日に明科の犀川・高瀬川・穂高川の三川合流地点で行われ、汲み取ったお水を翌18日に上高地にある穂高神社奥宮の明神池にお返しする「お水返し」の儀が執り行われた。折良く「お水返し」の神事に参加する機会を得て、盛秋の上高地に向いた。安曇野を流れる水に感謝をする祭事を見たいという意識と、上高地の紅葉と清らかな流水を眺めたいとの単純な動機だったが、奥宮神殿でお祓いと祝詞奏上を受けると、厳かな感謝の気持ちになり、2艘の船で明神池の水源地に乗り出しお水を戻す場面では、何やら涙が出そうな気分にもなった。自然への感謝と脅威の二律背反の感情が走ったからだ。

（M・S）